第109号
（発行所）
真宗大谷派
松岡山 廣讃寺
中村区城屋敷町3-30
TEL(052)411-5301
FAX(052)411-5341
携帯 090-1568-4623
〈E-mail〉
matsuoka@kosanji.or.jp

遊ぶ

正信偈の中に「遊煩悩林現神通」という句が出てきます。

書き下し文にすると、煩悩の林に遊びて神通を現じ、となります。ここで「遊ぶ」という言葉が出てきます。遊ぶというと現代では、おもちゃで遊ぶ、旅行に行って遊ぶ、道楽をして遊ぶなど、そんな感じで使われることが多いです。仕事を辞めて遊ぶ、の時の「遊ぶ」になると何もしないでぶらぶらして時間を過ごす、といった意味になります。

しかし「遊」という漢字には、自由自在に動きまわるという意味があります。

阿弥陀の光が遊ぶ。

我々は際限ない煩悩の中を生きています。そんな暗く閉ざされた煩悩、苦悩の世界に阿弥陀様の光はどこへでも出かけていく。それは絶えず動き、我々に働きかけているのだと親鸞聖人は教えておられます。

正信偈の漢字一文字を見ても奥の深さを感じます。

五十回忌

親族を亡くした人からよく聞かれること。

「法事は何回忌までやるのですか？」

という問いに、

「このあたりでは五十回忌までするのが正式です」

と答えると、だいたいの人が五十年後までもやらなくてはいけないのかと驚かれる。

しかし、少し考えてみれば、五十年後にご自分が生きているかどうか。五十歳過ぎの人であれば五十年後は百歳を超える。

そうしてみると、五十回忌を迎える前に自分のほうが先に死に、自分の葬儀、法事が入ってきて、自分の法事と一緒に合同で法事になったりする。

五十回忌とは、五十年とは長いもので、八十歳の人なら三十路のころに亡くなった人の法事となる。おそらく三十路から八十歳まであっという間だったと思われるかもしれないが、三十路と八十ではかなり年月が流れている。その流れた年月をよくよく見つめなおすの機会が法事であるともいえる。

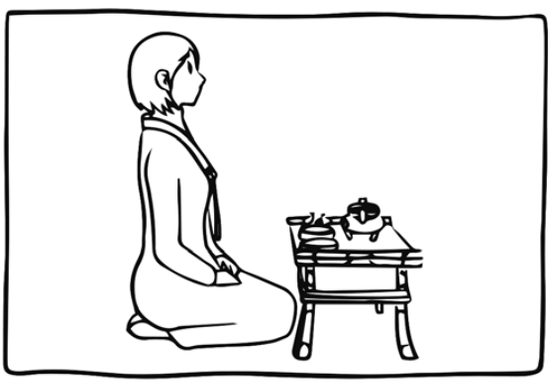
焼香

仏事で焼香を行いますが、これは古来インド、非常に暑い気候なので多量の汗をかくのでお香によって臭い消しに使っていました。そしてお釈迦様の説法を聞くときに身を清めるために焼香をしたといわれています。

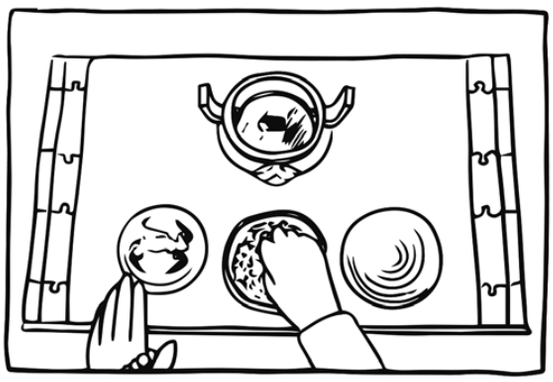
その焼香ですが宗派によってかなり違いがあります。焼香の回数も1回の宗派もあれば、2回、3回の宗派もあります。そして額の前までお香をつまんで押しいただく宗派もあります。

今回は真宗大谷派の焼香の仕方を紹介いたします。

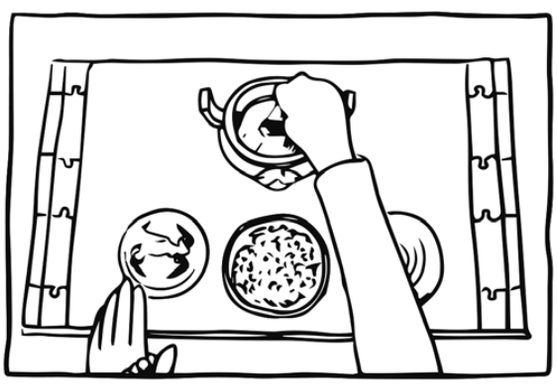
焼香の仕方



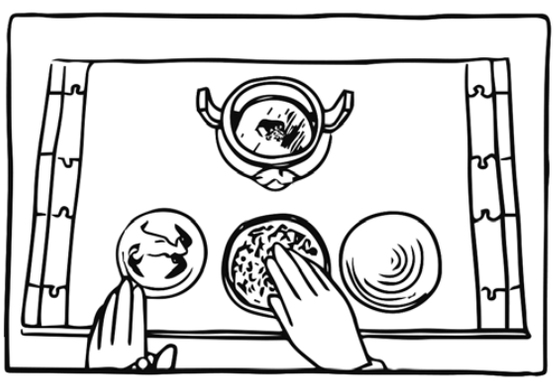
① ご本尊を仰ぎ見る



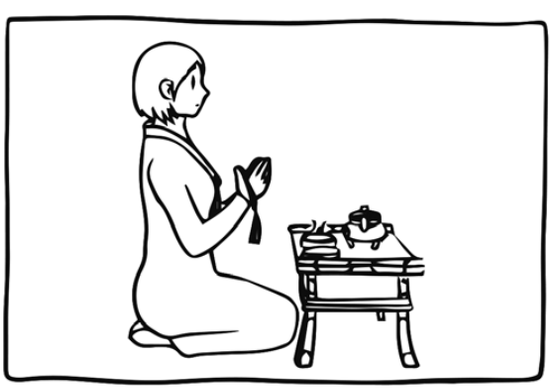
② 左手を卓端に添え右手で香をつまむ



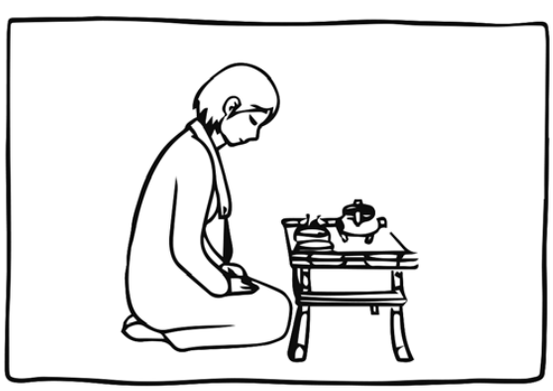
③ 香炉に２回入れる
（香をおしいただく必要はありません）



④ 香の乱れを整える



⑤ 合掌し　念仏を称える



⑥ 合掌を解き　礼拝

花まつり

四月八日はお釈迦さまの誕生日です。各地で花まつりが行われています。

この花まつり、正式には「灌仏会（かんぶつえ）」といいます。

二千五百年ほど前、お釈迦様は右脇から生まれ、すぐに七歩あるき右手を天に、左手は地を指し「天上天下唯我独尊（てんじょうてんげゆいがどくそん）」と言われたと伝えられています。私たち一人ひとりはかけがえのない命を生きていることを表しています。

そして花まつりでは柄杓（ひしゃく）で甘茶をお釈迦様にそそぎます。これはお釈迦様が誕生されたときに「甘露の雨が降りそそいだ」という伝説がもとになっています。

行事予定

四月七日（金）二時　常任委員会
八日（土）七時半　同朋委員会・例会
（役員は七時）
十六日（日）同朋会旅行
十九日（水）二時　学習会
二十八日（金）十時　おみがき

五月五日（祝）**復興永代経執行**
午前十時より　おつとめ　おとき
説教　荒山優師

五月十三日（土）七時半　同朋委員会・例会
（役員は七時）
十九日（金）二時～四時　学習会
二十八日（日）十時　二十八日講・女人講